

天塩川ものがたり 第2回「天塩川の歴史」

士別市立博物館 水田一彦館長 放送日：平成23年6月15日(水) 11:30～30分間

第2回目の天塩川ものがたりでは、引き続き天塩川の概要について教えていただこうと、天塩川の源流をもつ士別市で、天塩川の魅力を伝えるために今年度4月に新しくリニューアルされた、士別市立博物館で館長をされていらっしゃる水田一彦さんから、天塩川の歴史について中心に教えていただきました。

士別市立博物館



座りながらゆっくり話を聞ける工夫が



今回は、天塩川に人が住み始めてからということで、人と天塩川との関わりとその歴史についてお話を伺いました。

士別市立博物館内を歩き、館内に展示されている資料を見せていただきながら、幕末の探検家松浦武四郎の歩いた道をたどり、それぞれの場所と松浦武四郎との関わりなどを教えていただきました。

天塩川と名寄川が合流する場所の名寄には、遺跡の数も実は多く、豊かな自然に恵まれた天塩川流域には、昔から人が住んでいたということも知ることが出来ます。開拓期、士別剣淵まで屯田兵が来たという話や、鉄道が延びていくその道は天塩川に沿って工事が行われたという話もありました。

そのほか開拓が始まって人々がどういった生活を送っていたか、どんな道具を使ってお米を苦労して作ったかなどというお話や、屯田兵が入った当時の手書きの屯田兵の官舎なども記された地図を見ながら、家族と一緒に住まいることが条件だったというお話など伺いました。士別剣淵以北は主に団体入植によって開拓されたということです。今も残る地名からも知ることが出来ますね。

幾たび繰り返された氾濫によって平地となった川の上流地域では、作物を育てるのにとても良く、さらにはじめから沢山採れたそうです。

その後はでんぱんによって潤ったことや、明治以降の生活用品（レコード・蓄音機・雑誌など）もありました。

最後に、水田館長にとっての天塩川の魅力を伺うと「仕事を通して、川の様子を見たり調査した。この川がこれからの未来にどうなっていくのか、開発された川ではないからこそ、守って行って広めていけば、こんなに豊かで楽しめる川はない、天塩川の魅力を後世に残していけたら。流域の市町村同士がうまくつながって、情報発信を」と話していらっしゃいました。自然のままに残すことで移り変わっていく天塩川の未来をこれからも見てゆきたいものですね。

士別市立博物館

開館時間

午前9:30～午後4:30(4月～9月)

午前10:00～午後4:30(10月～3月)

休館日

月曜日(祝日の場合翌日も休館)

国民の祝日・年末年始(12月31日～1月5日)

入館料

高校生以上 100円

高校生以上団体 80円(20名以上)

中学生以下 無料

お問合せ

〒095-0056

北海道士別市西士別町 2554 番地

TEL/FAX 0165-22-3320